

私たちのまち＝阿久比町を大事にしたい

# 半田との合併協議会設置に反対を

12月26日  
住民投票

**合併協議会は、合併を進める場です。  
「合併するか、しないか」の論議の場ではありません。**

半田市と阿久比町の合併を協議する「合併協議会」設置の賛否を問う住民投票が、12月26日におこなわれることとなりました。

合併を推進する人たちは、「話し合いのテーブルにすることが大事だ。合併するかしないかを協議する場所だ。」と言います。しかし、そもそも合併協議会は、合併するために必要な二〇〇項目とも三〇〇項目とも言われる事務を処理し、新市計画を策定する場です。ですから、実際には合併するかしないかはほとんど議論の余地なく、合併が推進されるのが各地の合併協議会の実態です。

阿久比町にとってメリットのない半田市との合併に、やさしい町政の会は反対です。

## 半田市の巨額の借金をかぶることに

半田市は、一般会計・特別会計合わせて八六〇億円、市民一人あたり八三万円という大変な借金をかかえています（知多5市5町で最高）。それでも、現在大型の再開発などの事業をすすめています。

合併すれば、これらの多額の借金を阿久比町民もかぶることになり、しかも半田市中心の大型開発の影響も受けます。

**「五年たてば阿久比も赤字」は根拠なし  
あなたの声が届いてこそ、政治はよくなる**

合併を推進する人たちは、「合併しないと地方交付税がゼロになる」とか、「合併しなければいずれ阿久比町も赤字になる」と言いますが、その根拠はまったく示されません。むしろ、合併すれば、新市の地方交付税は、合併特例がなくなる一〇年後には、合併しない場合より大幅に減ります。

一番大事なのは、身近で住民の声が届く地方政治です。大きな声が届かなくてはゆきとどいた行政サービスとなりません。

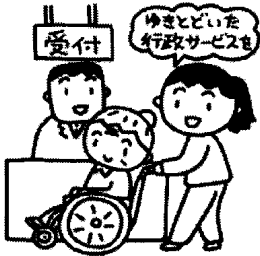
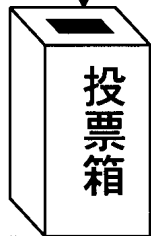
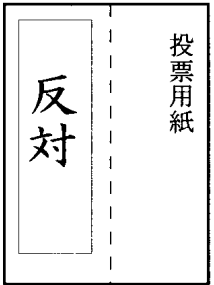
## 税金が安くなるどころか、ふえる負担

半田市との合併は、人口・財政規模からいっても対等なものとはならず、役所も遠くなり、行政サービスも後退します。宅老所や配食サービスなど、阿久比町が住民とともにすすめてきたすぐれた施策が、受け継がれ発展させられる保障はありません。市街化区域の農地は「宅地並み課税」となり、大幅な増税はされられません。

十二月二六日に、半田市・阿久比町合併協議会設置  
についての住民投票がおこなわれます。

投票方法は、合併協議会設置に賛成の人は「賛成」と書き、反対の人は「反対」と書いて投票することになっています。

投票用紙に「反対」と書いて投票してください。



## やさしい町政

人にやさしい阿久比町政をつくる会

会報 33号 2004年12月

代表：清水 清 事務局長：稲葉 皆生

<連絡先> 48-0567